2026年9月30日現在

Monthly Report

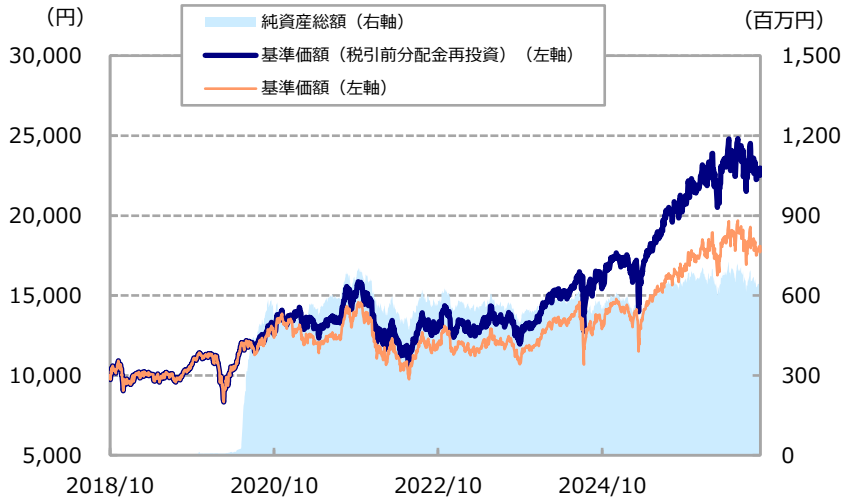
東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

追加型投信／国内／株式

日経新聞掲載名：レジリエンス

基準価額、パフォーマンス等の状況

基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。
※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
※基準価額は1万口当たりで表示しています。
※設定日は2018年10月29日です。

基準価額・純資産総額

基準価額	18,086 円
純資産総額	648 百万円

騰落率（税引前分配金再投資、%）

	ファンド
1ヵ月	-2.63
3ヵ月	-4.09
6ヵ月	+10.61
1年	+13.29
3年	+75.37
設定来	+129.84

※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

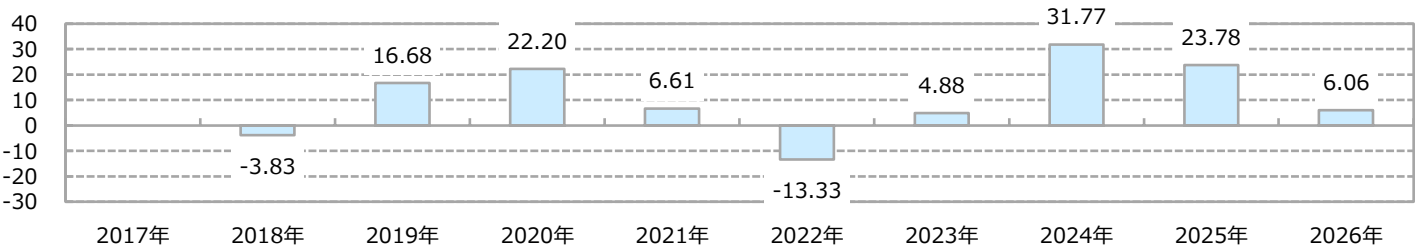
分配の推移（１万口当たり、税引前、円）

期	決算日	分配金
第12期	2024/7/18	800
第13期	2025/1/20	250
第14期	2025/7/18	450
第15期	2026/1/19	130
第16期	2026/7/21	140
	設定来累計	**3,270**

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。
分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

年間収益率の推移（%）

※ファンドにはベンチマークがありません。



※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しており、設定日以降を表示しています。
※設定年は設定時と年末の騰落率です。当年は昨年末と基準日の騰落率です。
※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

■設定・運用：**東京海上アセットマネジメント**

Monthly Report

東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

主要な資産の状況

ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、東京海上・ジャパン・レジリエンス株式マザーファンドの資産の状況を記載しています。

資産構成（%）

資産	比率
株式	98.9
株式先物	-
短期金融資産等	1.1
合計	100.0

純資産総額	4,355 百万円

市場別資産構成（%）

市場	比率
プライム市場	98.9
スタンダード市場	-
グロース市場	-
その他	-

組入上位10業種（%）

	業種	比率
1	電気機器	24.0
2	機械	16.0
3	化学	10.2
4	非鉄金属	9.8
5	建設業	7.8
6	サービス業	6.6
7	情報・通信業	6.4
8	銀行業	5.3
9	医薬品	4.6
10	保険業	4.1

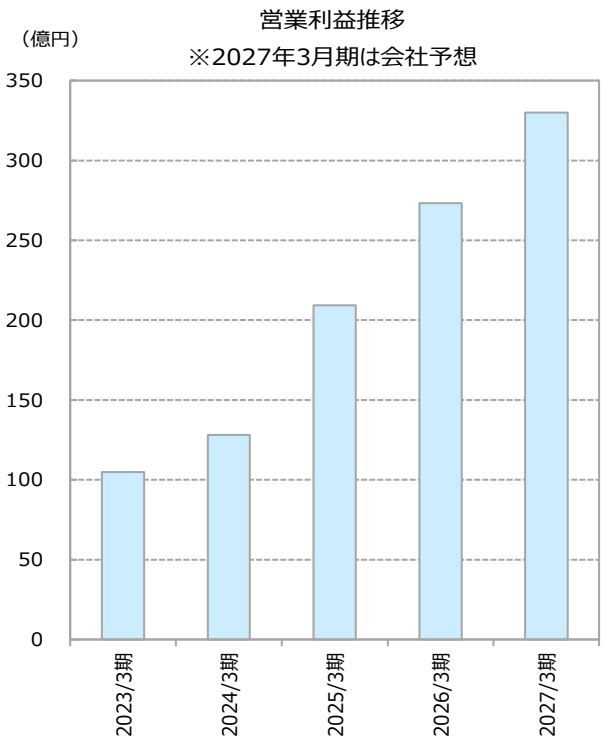
※比率は純資産総額に占める割合です。
※資産構成の短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。

個別銘柄の紹介　～ ファンド組入銘柄の一例 ～

SWCC
～電力網強靭化の追い風を受け成長が期待される～

同社は1936年、東京電気株式会社（現 株式会社東芝）の電線部門から分離され、昭和電線電纜株式会社として設立されました。電力網、情報通信網関連の事業に強みを持ち、社会のインフラ整備に貢献をしてきました。足元では、インフラの老朽化および再生可能エネルギーやデータセンターの需要増加により、電力網強靭化は社会的な重要課題となっており、同社はその追い風を受け成長していくことが期待されます。2023年4月にはSWCC株式会社へと社名を変更し、総合電線メーカーからソリューション提案型メーカーへの進化を目指しています。

同社は2027年3月期に前年比+20.8%となる営業利益330億円を計画しています。



ファンドのコンセプトをご理解いただくためにご紹介するものであり、特定の銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。
上記のコメント等は東京海上アセットマネジメントの調査に基づき作成されたものであり、ファンドの基準日現在の組入銘柄を紹介するもので、その内容は将来変更される可能性があります。シェア等は、東京海上アセットマネジメントの調査に基づく推計です。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

主要な資産の状況（続き）

組入上位10銘柄（%）

	銘柄コード／銘柄／業種	比率	銘柄概要
1	6098 リクルートホールディングス サービス業	6.6	日本および国外で求人広告、人材派遣、販売促進、ITソリューションなどのサービスを手掛けるリクルートグループの持株会社。
2	285A キオクシアホールディングス 電気機器	6.4	メモリー半導体大手。NANDで世界トップクラスのシェア。
3	4004 レゾナック・ホールディングス 化学	5.6	半導体後工程向け材料に強みを持つ化学メーカー。
4	8306 三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ 銀行業	5.3	国内最大の民間金融グループ。銀行、信託、証券、カード、リースなどを傘下に持つ。
5	5802 住友電気工業 非鉄金属	5.1	電線メーカー最大手。光ファイバーなど通信インフラや自動車用ワイヤーハーネスに強み。
6	6503 三菱電機 電気機器	4.8	総合電機大手。FA（工場生産の自動化）、パワー半導体に強み。
7	5805 ＳＷＣＣ 非鉄金属	4.7	建設関連や電力インフラ向けを主力とする電線メーカー。
8	4519 中外製薬 医薬品	4.6	スイスの大手製薬会社ロシュ社傘下にあり、バイオ医薬品やガン領域に強い製薬会社。
9	4021 日産化学 化学	4.6	半導体、液晶ディスプレイ向けの電子材料や、農薬（除草剤）を主力とする化学メーカー。
10	6723 ルネサスエレクトロニクス 電気機器	4.4	自動車、インフラ、IoT分野に強みを持つ半導体メーカー。

組入銘柄数	23

※比率は純資産総額に占める割合です。

※「銘柄概要」について

ファンドのコンセプトをご理解いただくためにご紹介するものであり、特定の銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。その内容は、東京海上アセットマネジメントの調査に基づき作成されたものであり、ファンドの基準日現在の組入銘柄を紹介するもので、将来変更される可能性があります。シェア等は、基準日現在で東京海上アセットマネジメントの調査に基づく推計です。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report
東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

ファンドマネージャーコメント

＜市場概況＞
【国内株式市場：中東情勢に対する懸念の高まりから上値の重い展開】
9月の国内株式市場は、TOPIXは1.15%下落（配当込みベースは0.27%下落）、日経平均株価は0.67%上昇しました。
上旬は、前月末からのTOPIXの連騰で月中高値をつけてスタートしたものの、中東情勢の懸念の高まりを受けた原油高や国内長期金利の上昇などが嫌気され、国内株式市場は下落しました。
中旬は、中間配当の権利取りを狙った買い支えや円安の進行、FOMC（米連邦公開市場委員会）で市場予想通りに利上げを決定したことなどから、国内株式市場は小幅に上昇しました。
下旬は、米中首脳会談が友好ムードで終えたことへの安心感などから国内株式市場は買いが先行したものの、日米の金利上昇が警戒されたことや中間配当の権利落ちなどを受けて、おおむね横ばいとなりました。

＜運用状況＞
当社独自の調査・分析に基づき、着実な利益成長が見込まれ、かつ、その実現可能性が高いと判断する銘柄に厳選して投資を行いました。銘柄の選定にあたっては、株価のバリュエーション（投資価値を測るための指標）に捉われず、利益の成長性にフォーカスしています。また、等金額投資を基本とし、適宜リバランスを行いました。
当月の投資行動は、半導体材料メーカーなどを売却した一方、電気工事会社、重工大手銘柄を新規に組み入れました。
個別銘柄では、キオクシアホールディングスや住友電気工業などの銘柄はプラス寄与しましたが、中外製薬やSWCCなどがマイナス寄与しました。
以上のような運用の結果、当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資）は前月末比下落しました。

＜今後の見通しと運用方針＞
10月の国内株式市場は底堅い展開を想定します。
国内では、原油価格の上昇を受けた中東情勢対応の予備費を含む約3兆円の補正予算などの政策的な下支えに加えて、経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）における官民投資も個人消費や設備投資をサポートすると考えます。ただし、原材料価格や人件費の上昇などを背景とした製品価格の値上げ、日銀の利上げや積極財政への警戒による10年国債利回りの上昇など、個人消費や企業の設備投資意欲への下押しリスクには留意が必要と考えます。
海外では、引き続き中東情勢の動向が注視されます。ホルムズ海峡の封鎖が継続していることに加え、米国からイランへの制裁強化なども報じられており、中東情勢が緊迫化する懸念や原油価格の高騰によるインフレへの警戒感が残っています。また、11月に控える米国中間選挙やウォーシュFRB（米連邦準備制度理事会）議長の委員会運営などに関心が集まっています。一方、米国の減税法案をはじめとする各国の拡張的な財政政策による景気の下支えが期待されます。なお、その他のリスク要因としては、欧米の物価動向、地政学的リスク、中国の景気刺激策などを注視しています。
国内企業の業績見通しでは、足元堅調なAI・半導体関連企業の持続性、原油価格の上昇に伴う部材コストや物流費上昇による業績への影響や消費者心理への影響、ITソフトウェア関連企業やエンターテインメント企業におけるAIの普及拡大による業績への影響などを含め、四半期ごとの利益の進捗に注目します。

当ファンドでは主として、強靭（レジリエンス）なビジネスモデルを有し、利益成長の実現可能性が高いと判断する日本企業の株式に投資します。銘柄の選定にあたっては、利益の成長性と企業調査等に基づく成長の実現可能性をもとに約20～30銘柄程度に厳選して投資します。なお、ポートフォリオの構築にあたっては、等金額投資を基本とします。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

ファンドの特色（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

1． 主として、強靭（レジリエンス）なビジネスモデルを有し、利益成長の実現可能性が高いと判断する日本企業の株式に投資します。

- 外部環境の変化に対する耐性や秀でた競争優位性、独自のブランド力等を有し、着実に利益成長を実現していくと判断する企業の株式に投資します。

※ 日本の取引所に上場されている株式のほか、上場予定の株式にも投資する場合があります。

2． 銘柄の選定にあたっては、利益の成長性と企業調査等に基づく成長の実現可能性をもとに約20～30銘柄程度*に厳選します。

＊ 組入れ銘柄数は、予告なく変更となる場合があります。

- 市場コンセンサスや株価バリュエーションに捉われず、利益の成長性にフォーカスした分析・調査により銘柄を厳選します。

3． ポートフォリオの構築にあたっては、等金額投資を基本とします。

- 等金額投資を基本とし、組入れ銘柄の利益成長を広く享受することをめざします。

※ 等金額投資を基本としますが、予告なく変更となる場合があります。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

【分配金に関する留意事項】

・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

・ 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドの主なリスクについて（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

・ 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
・ 運用による損益は、全て投資者に帰属します。
・ 投資信託は預貯金や保険と異なります。
・ ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

■価格変動リスク	：株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。また、ファンドでは、比較的少数の銘柄への投資を行うことがあるため、より多くの銘柄への投資を行うファンドと比べて、1銘柄の株価変動が投資全体の成果に及ぼす影響度合いが大きくなる場合があります。
■流動性リスク	：受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

お申込みメモ（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込不可日	ありません。
信託期間	2028年7月18日まで（2018年10月29日設定）
繰上償還	以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 ・ 受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき ・ ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・ やむを得ない事情が発生したとき
決算日	1月および7月の各18日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。 ファンドは、「NISA」の対象ではありません。 配当控除は適用されますが、益金不算入制度の適用はありません。 ※税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

ファンドの費用（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して上限3.3%（税抜3%）の範囲内で販売会社が定める率をかけた額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

■投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年率1.573%（税抜1.43%）をかけた額とします。
その他の費用・手数料	以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。 ・ 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%（税込）をかけた額（上限年99万円） ・ 組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・ 資産を外国で保管する場合にかかる費用 ・ 信託事務等にかかる諸費用 ※ 監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・ジャパン・レジリエンス株式オープン

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。

■当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

■投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。

■投資信託は、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

■投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

■投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。

■登録金融機関から購入した投資信託は、投資者保護基金の補償対象ではありません。

委託会社、その他関係法人

■委託会社：東京海上アセットマネジメント株式会社
ファンドの運用の指図を行います。
商号等：　東京海上アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長 (金商) 第361号
加入協会：一般社団法人 資産運用業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■受託会社：三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
ファンドの財産の保管・管理を行います。

■販売会社

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社 ＳＢＩ証券		○	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
株式会社 ＳＢＩ新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社 ＳＢＩ証券）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	
松井証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
むさし証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第105号	○			○
楽天証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※販売会社によっては、現在、新規申込みの取扱いを中止している場合があります。

当ファンドの照会先

前掲の販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント　サービスデスク　０１２０－７１２－０１６　受付時間：営業日の９時～17時
ホームページ　https://www.tokiomarineam.co.jp/

東京海上アセットマネジメント
YouTube公式チャンネル
ファンド・マーケット関連動画などを公開しています。